

みんなの 町議会

広島県
神石高原町

第57号
平成31年1月15日

2年の成果 成長を期待!!	2
町政のここを聞く	6
こんなことが決まったよ	14
ありゃあどうなったん?	15

次世代議会
おたしたちの
夢、提案!!



期待!!

挑戦の芽

12月定例会

12月定例会は、12月7日から14日まで開かれました。提出された平成30年度一般会計と特別会計の補正予算を含め、26議案を慎重審議し、すべて原案通り可決しました。一般質問では8人が町長・教育長に行政課題などについてたずねました。

超高付加価値農業の実現

- ◆ プレミアムブランドの認定
JIN(神)プレミアム5件認定
- ◆ 産直市場の経営統合
さんわ182ステーションと百彩館の経営統合
まるごとからエブリイへ出荷の変更
- ◆ トマト団地整備
黒木谷トマト団地用地買収



神石高原町議会議長
松本 彰夫

新年のご挨拶

新年おめでとーございませう。

町民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと、心からお慶びを申し上げます。

昨年を表す言葉に「災」が選ばれましたが、本町でも7月豪雨災害で未曾有の被害を受けました。

この災害の教訓を活かし、災害に強い町づくりに取り組まなくてはなりません。

一人一人の議員力を高め、常任委員会などの活動を充実させ、皆様の期待にこたえられるように頑張ります。

今年一年が神石高原町にとって、皆様にとって大きく飛躍する年になりますよう祈念して新年の挨拶いたします。

町政 2年の 成果

成長に

どうなった

定住促進の強化

- ◆ 第2定住団地 **井関地区用地取得**
- ◆ 新平谷住宅用地 **販売計画策定**

世界を相手にできる 人財づくり

- ◆ 中高生海外研修充実
オーストラリア姉妹校調印
- ◆ イングリッシュフェスティバル
英語力向上をめざし毎年開催

医療福祉サービスの充実

- ◆ 町立病院建て替え
**平成34年春開設に向け設計業務
推進中**
- ◆ ふれあいタクシーの充実
予想外の利用拡大 補正で対応

教育環境の整備

- ◆ 普通教室への空調設備設置
全学校に空調設備の設置
- ◆ 安全対策 **危険ブロック塀の改修**

期待にたえられるように頑張ります



補正予算をチェック



町全体総額

補正予算 ▲1億4451万円 補正後予算 192億9341万円

おもな補正事業

- ・庁舎建設事業繰り延べ **補正額 ▲4億9998万円**
- ・町立病院事業繰り延べ **補正額 ▲1億652万円**
- ・ふれあいタクシー事業 **補正額 2300万円**
- ・協働のまちづくり団体支援事業 **補正額 1億9649万円**
- ・小中学校ブロック塀 冷房設備対応 **補正額 1億7991万円**

政策企画課

定住促進住宅

橋本議員 新平谷住宅（豊松地区）の用地は新年度5区画が販売予定だが、情報発信が遅れているのでは。

政策企画課長 早速に宅建業者などを通し情報発信を行う。
インターネットなども活用し予約告知を行えるよう検討する。

移転補償費

橋本議員 第2井関定住団地の補償費の単価は、なぜ不動産鑑定士に依頼したのか。

政策企画課長 販売時の基礎単価とするため地理条件など勘案した単価として必要だ。

総務課

長時間労働

久保田議員 職員は災害対応で夜12時まで残業しているとの説明があったが、長時間労働につながる改善すべきでは。

総務課長 現地調査などで月平均150時間残業した。健康管理に留意するよう指導している。

ふれあいタクシー

横山議員 ふれあいタクシー事業が2300万円追加補正されているが、将来の財源確保は。

副町長 タクシー事業は高齢者の買い物支援であったり、生きがい対策にもなっているので、過疎債やふるさと納税などを活用して、持続可能な事業にしていきたい。

まちづくり推進課

ふるさと納税

久保田議員 ピースウィングズ・ジャパンの代表が法律違反の疑いで書類送検された。ふるさと納税の対象から除外すべきでは。

副町長 納付者から100%活用してほしいとの要望もある。NPO法人に確実な事業を行っていただくため手数料を下げた。

木野山議員 NPO法人へのふるさと納税交付金は、町を経由しての交付である。寄付者も寄付全額を意思100%反映させるのならば直接寄付にすべきだ。
なぜ12月補正なのか全く理解できない。NPO法人に於いて対応すべき問題だ。

補正予算質疑

町長 当初は寄付額が1億円程度でそれに掛かる経費が5%程度と見積もった。

今は寄付額も多くなり、寄付者の意向に沿うよう率を2%とした。

この度雑誌などに載り、騒がれているので納税者に町の考え方を理解して頂く取り組みにするため今回実施した。

横尾議員 「大殺処分ゼロ」の活動が、週刊誌などで報道されている。

今後ふるさと納税が減る可能性がある。

県も関わっている事業なので、県に補助金の要請はできないのか。

町長 県の経費削減はできている。県の健康福祉局との間で持続可能な仕組みづくりについて協議している。

ビジネスアワード

横尾議員

ビジネスコンテストの応募者が、昨

年の9件に比べ今年は3件と少ない。住民周知が出来ていないのでは。

町長 今後は、しっかりと周知を図り、審査のやり方なども検討する。

橋本議員 企業支援など目的としたビジネスコンテストは、最優秀賞あつての優秀賞ではないのか。

まちづくり推進課長

3件の応募があり最優秀賞は該当がなく、優秀賞2件だった。審査員の適正な審査により決定したものだ。

福祉課

保育所

施設管理経費

木野山議員 熱中症対策として保育所、小学校ともエアコン設備設置に追加補正予算が計上された。どんぐり幼稚園はどうするのか。

教育長 エアコン設置について次年度予算計上したい。

水質調査

林議員

コスモス苑(神石地区)の井戸の水質検査は、今回の補正で初めて上がったが、なぜか。

福祉課長

コスモス苑の水質は、神寿苑の水質と一緒に使っていた。神寿苑移設に伴い、コスモス苑の単独の水質を使うよう決めた。神石地区の水質の問題も出ており、51項目の検査をする。

国民健康保険

林議員

12月補正で国民健康保険特別会計の財政調整基金から繰り入れをしているが、国保県内統一化後に伴う保険料引き上げによる、激変緩和

和措置の財源確保は出来ているか。

福祉課長 本町の国保財政調整基金1億4千万円を活用しながら、住民の方の理解を得る中で健全な運営ができるよう進めていく。

保健課

病院経費

横尾議員 町立病院の医局用パソコンなどに104万7千円の補正がある。なぜ町の負担となるのか。

産業課長 生産者への請求書発行などもこのシステムで行う。手数料は182ステーションリニューアル後に早い段階で決断したい。

赤木保健課長 指定管理者が購入した場合、備品の所有権に問題が生じるため、町の負担とした。

産業課

道の駅手数料

木野山議員 POSシステム改修に併せ生産者手数料は統一しないのか。

産業課長 生産者への請求書発行などもこのシステムで行う。手数料は182ステーションリニューアル後に早い段階で決断したい。



高齢者の外出機会を増やす事も期待される、ふれあいタクシー事業

平成30年度 補正予算 議員賛否表

○=賛成 ×=反対

議案名	寄定秀幸	藤田晃己	木野山孝志	小川清治	久保田龍泉	橋本輝久	横尾正文	横山素子	赤木俊一	林憲志	小川善久	松本議長
神石高原町一般会計	○	○	○	○	×	×	○	×	○	○	○	—
神石高原町総合開発事業特別会計	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	—
神石高原町病院事業特別会計	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	—

その他は全員が賛成 議長は採決に加わらない

町政の「こころ」を聞く

質疑の一部を要約してお伝えします
質問時間は、答弁を合わせて一人一時間以内で一問一答方式



寄定 秀幸 議員

問 防災・減災をまちづくりの柱に



答 災害に強いまちづくりを推進

問 防災・減災対策をまちづくりの柱に据えるべきでは。

答 町長 防災・減災対策は今後のまちづくりの最重要課題である。限られた予算の中で緊急性、重要性の高い施策を最優先し、災害に強いまちづくりの実現に取り組む。

問 大規模水害などから自らの命を守るため、自らの行動計画を時系列で定めた「マイタイムラ

イン」の作成が重要では。
答 町長 有事の際の行動計画を自ら作成することは、防災意識を高めるとともに、確実な避難行動を行う上で大変有効な手段である。今後の自主防災研修会などで学習し、啓発していきたい。

問 自主防災組織の機能強化と防災リーダー養成が必要では。

答 町長 災害に強いまちづくりを進めるため、「自分の命は自分で守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」との考えのもと、地域住民が主体となって活動する仕組みを構築していかなければならぬ。各自主防災組織へ防災リーダーを配置するため、「防災士養成講座」への参加を推進し、体制整備に取り組む。

問 災害救助の専門チームを有するNPO法人ピースウィンズ・ジャパンとの連携強化が必要では。

答 町長 現在も行方不明者に必要に応じて支援をいただいている。大規模災害が発生した際の支援についても協力をいただければ、連携をお願いしたいと考えている。

ICT教育の充実推進

問 学校でのICT教育の充実推進のサポートをする「ICT支援員」を配置するべきでは。

答 町長 今後教育委員会等でICT支援員を採用するなどし、学校のICT教育の充実・推進に努めたい。



本町に本部をおく、ピースウィンズ・ジャパン

※ICT = Information and Communication Technology
情報通信技術の略

幼児教育の無償化は

問 2019年10月に実施される消費税率10%への増収分は年金、医療、介護の充実に加え、幼児教育無償化や給付型奨学金の拡充に充てられる事となっている。幼児教育無償化へどう取り組むのか。

答 町長 本町は、少子化対策や定住促進の保育料の実質無償化など、早くから取り組んできた。国の状況を踏まえ、取り組みを進めたい。

問 保育・幼児教育の「完全無償化」が可能では。
答 町長 検討したい。



小川 善久 議員

問 小島バイパス信号機は

答 現在の信号機を移設

町長

問 小島バイパスは平成31年4月に全線開通するが、バイパスの交差点は、小島交差点の信号機を移設して使うと聞いた。庁舎は2021年夏の運用開始なので、2年のあいだ交通量は予定ほど減らない。

答 2つの交差点の計画と町の対策は。

町長 小島バイパス完成に併せて、現在設置の信号機をバイパス交差点へ移設する。吉舎油木線現道への進入時は一旦停止となる。信号機の設置については、信号機設置の指針に示されている項目、全ての条件に該当し、信号機の設置のための条件を満たす必要がある。

問 現在、夜9時以降は点滅信号となる。一旦停止はこの状態と同じようになる事だ。井関側から交差点へ入る場合、全く左右が見えないため、夜間ですら、恐怖心を感じる。

答 県の道だからどうする事もできないと、他人事のようなだ。

町 としてどのような対策を考えているのか。

建設課長 停止線で一旦停止をした後、徐行をしながら交差点に入れば安全は確保できると考えている。

町 注意喚起の看板などは町が設置できる。

問 交通事故総合分析センターの調査では、出会い頭事故の対策としてはカーブミラーの設置などが有効との結果が出ている。設置できないか。

答 建設課長 県に許可権限があるので県と協議したい。

問 確実に危ないと分かっているのだから、打開策を考えておく必要があるのではないか。

町長 広島県と事前に協議をしながら必要な対策をおこない安全確保に努めたい。

問 安全確保のため現場職員への通勤経路の規制が出来ないか。

副町長 すでに町の職員とは申し合わせをしているが、再度周知をする。

問 病院やJA、福祉施設の職員へも協力してもらうことが必要ではないか。

副町長 お願いといることは出来ると思うが、交通規制までするのは問題がある。

町長 注意喚起を促すために町も県と連携して安全対策をできるだけしていきたい。



小島バイパス交差点



吉舎油木線小島交差点

問 森林環境譲与税の用途は



答 プッシュ型行政で住民の声を聞く



林 憲志 議員

問 アンケートの回収後、新たな森林管理システムを考えるより、議論をして新たな管理システムの形態や地域の動向を示しながら、山主の考えを聞いていくべきでは。

答 町長 先ずは森林の経営管理の責務を明確化する必要がある。森林所有者自ら経営管理されるのか、或いは市町村に経営管理権を移譲されるのか、意向調査をする必要がある、平成31年度はアンケート調査を予定している。

答 産業課長 管理が出来ない方で経営が成り立たない場合も、災害の恐れのある場合は、行政が管理をする必要がある。そういった内容も書きこんでアンケートを行う。

問 森林環境譲与税の用途は。

答 町長 現在、国から示されている用途については、間伐や路網整備に加え、森林整備を促進するための人材育成、担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発に充てなければならぬ。この制度は森林環境譲与税を財源とした制度なので、国から示された用途に基づき、最大限の効果が生まれるよう、町民要望を聴くなど私の理念でもある※プッシュ型行政で進めて参りたいと考えている。

問 森林環境譲与税を小規模林業の振興に使用しないか。

答 町長 現段階では、小規模林業の振興に使えるか否かは示されていないので、先進事例を参考にし検討する。

などの除去には使えない。庄原市と共に、広島県と中国電力に除去を要望している。

福祉避難所の整備は

は、3施設（シルトピア油木、神寿苑、ビーブル神石三和）ある。

問 森林環境譲与税を帝釈峡神龍湖の流木除去などで還元・啓発できないか。庄原市と連携をしようか。

答 町長 用途の一つに土砂災害などの発生リスクを低減させるための財源としては認められるが、被災などによる流木

問 本町は災害時などに対応する福祉避難所は整備されているか。7月豪雨災害の時、機能したか。

答 町長 本町の地域防衛課と今後の取り組み

答 町長 本町の地域防衛課で指定している福祉避難所について

避難行動要支援者名簿の外部提供に同意された方を対象に、およそ1000人の個別計画を作成している。今回の災害で福祉避難所へ緊急的に誘導を必要とする方はいなかった。

課題は、社会福祉法人などと十分な連携ができていないことだ。合同訓練や研修をする必要があり、早急に進めたい。



台風24号で崩壊した国有林

※プッシュ型行政… 住民が利用できる手当てや諸制度を、行政が積極的に案内すること



赤木 俊二 議員

問 入江町政への町民の反応は

答 徐々に考えが浸透

町長

問 「誰もが挑戦できるまち神石高原町」のスローガンを掲げ町長が就任して2年が経過したが、町民の反応は。

答 町長 町民の方々の意見を直接聴き、内容を町政に反映させる思いから「ようこそ町長室へ」などで町民の声に触れている。徐々に考えが浸透していると考えている。

問 町民の声を8つの挑戦にどう反映するの

答 町長 町民の声はすべてが肯定的ではなく要望やご意見もある。

そういったのも聴きながら進める。新年度予算では特に子育て・教育に取り組む予定だ。積極的に町民の意見を聴くという姿勢でいきたい。

し尿処理施設業務委託

問 平成30年6月議会で、し尿処理施設の管理業務委託がどうなるか一般質問した。その後の進展は。

答 町長 当初は施設の管理業務と、し尿の収集運搬業務を一括して委託することとしたが、施設の運転管理業務のみを委託する。

平成31年4月1日からの委託業務開始の予定だ。収集運搬業務については、当面は直営で行いたいと考えている。

来町外国人対応

問 今後、日本を訪れる外国人が増加すると見込まれる。本町での対応は。

答 町長 本町でも外国人の観光客の誘致を取り組んでおり、今後多くの外国人の来町が予想される。

入管法の改正や外国人の増加を肯定的に受け止め、行政サービスの向上などに積極的に取り組み、外国の方々にも住みよいまちづくりを進めたい。

問 長期総合計画にはないが、今後どう対応するのか。

答 政策企画課長 今後計画に反映させていきたい。

答 町長 考えていく必要がある。見直しなどで臨機応変に対応したい。

教育へのICT活用

問 ICTを使った教育の現状は。また、主体的な学びとの関連は。

答 教育長 平成32年度には各学校にタブレットが配布完了予定だ。

現在、各教科での電子黒板の活用やタブレットを活用しての課題解決、海外姉妹校とのテレビ会議などを行っている。主体的な学びとの関連では、ICTを活用し、課題に対して必要な事項を意欲的に調べたり、協働して取り組むことができる。と考える。



積極的に意見を聴く「ようこそ町長室」

問 補助金の見直しは



町長 答 総点検を実施し整理する



横尾 正文 議員

問 新年度予算で、各種団体の補助金の見直しが行われるが、その根拠は。

また丁寧な説明が必要と思うが、今後の予定は。

答 町長 多くの財源は、税金であり、公平性や透明性が確保されることが必要である。

住民の理解を得られる補助金として総点検を実施し、整理していきたい。新年度に向けて作業を進める。

町立病院の運営

問 町長は、政策医療交付金は完全精算制にし、3期目の基本協定書も、2期目の内容を変更しないと言われた。これでは政策医療交付金が増える可能性がどのくらいあるのか。

答 町長 住民が、安心して暮らせるよう、必要な医療を確実に提供できる体制維持を最優先に考えている。交付税を大きく超えるようだと対応を考える。

問 3期目の基本協定書と年度協定書の概略説明はいつするのか。また町立病院協議会を定期的に開催はしないのか。

答 町長 調整ができた第、議員調整会議で行う。また町立病院協議会は、実施設計の図面が具体的になった段階で開催する。

問 町民は、急性期病院に1時間以上かかる30分を超えると重篤の場合、生存率が大幅に落ちる。急性期医療の確保をどうするのか。

答 町長 地理的に不利のため、30分以内の搬送は困難である。重篤の場合、ヘリコプターの出動要請や、町立病院で応急処置後の搬送での対応はできない。

問 昨年の8月、マムシ咬傷の患者が、町立病院に自家用車で行ったところ、診れないという事で、町内の開業医院に転送されたと聞く。どうなっているのか。

答 町長 その時は、当番医が支援医で対応できなかった。以降は、町立病院で対応ができるように指導を行った。現在ではそういったことはない。

物品購入の入札

問 本町の物品購入制度の基準は。また、町内業者の育成についての考えは。

答 町長 本町の入札参加資格登録業者の中から選定している。町

内に本社や本店を置く業者だけでは、物品によっては入札に支障をきたす場合があるため、支店などを置く業者も入札に参加させている。しかし、取り扱いがない場合を除き、原則町内業者から選定を行うこととしている。各職員に周知徹底を図っている。



安田出張所に常駐する、救急車と救急救命士



橋本 輝久 議員

問 新年度の基本的考えは

答 若者世代に魅力を

町長

問 平成31年度の予算編成に取り組み基本的な考え方は。

答 町長 本年7月に発生した豪雨災害における災害復旧を最優先課題として取り組む。

また特に若者世代に魅力ある環境づくりを行うため子育て・教育関係を中心に考える。

そして「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「第2次長期総合計画」に掲げる各種事業を推進し、人口減少に歯止めをかけ人口増に取り組む。

問 入江町政の2年間の事業評価と課題は。

答 町長 町外の関係者にも多くの提言や指導を受け、「誰でも挑戦できるまちづくり」の実現に邁進してきた2年であった。

政策提言集「入江よしのりの8つの挑戦」を基本に、超高付加価値農業の実現をはじめ、人財づくりや医療福祉サービスの充実など、様々な問題を抱えつつも、少しずつ芽が出てきていると思う。

最大の課題は、町民との対話だ。私の考え方を伝え、理解して頂くこと。懇談会やよろこぼ町長室をさらに踏み込んで「皆さんと語る」ことを一層強化していく。

問 各種新規事業に取り組んでいるが、将来に繋げる施策や開花を期待する施策などさまざまである。これまでの事業評価と課題は。

① 超高付加価値農業では、都市部でのPR活動の成果として、ある会社では、社員向けの「ふるさと納税サイト」を立上げている。神石牛や町内産の特産品販売に繋がったものと考えている。

答 町長 主なものは、

② 広く世界で活動できる人財育成を唱え、英語教育の重要性を訴えてきた。具体的には、保育所園児へ英語に触れてもらう活動。高校生や中学生へのオーストラリア留学制度や検定補助を行っている。

③ 定住促進の強化として、第2定住団地や豊松地区の子育て世代支援団地などの進展。空き家バンク制度については、これまで登録物件数161件、成約数117件となっており、今後も継続して進めていく。

④ 財政健全化の取り組みとしては、稼ぐ行政への転換として、保有する基金を運用し大幅な財産運用収益を確保した。(平成29年度、約6千万円)

その他の質問

協働支援センターの活動の評価と支援策



世界で活躍できる人材を目指しオーストラリア留学をした中高生

問 町単独支援制度の見直しを



答 町外業者へも対象を広げる



久保田 龍泉 議員



土砂の流入した山間の田んぼ

問 農地農業用施設災害、被災宅地復旧事業などの補助条件が町内業者に限定されている。今回の場合、緊急時にも業者が忙しくて復旧を請け負えない場合があった。

問 単独農地農業用施設補助や被災宅地など被災箇所が何件あるうが自治振興会や班などの組織に一律2万円補助の方針だが、被災箇所1カ所2万円にすべきでは。

答 町長 今回の災害は甚大で十分対応できていない。提案の通り対象を広げるべきと考える。

答 町長 共助を推進するための一助として制度化されたもので被災に対する補助ではなく、住民組織が活動した場合の補助だ。

問 個人で災害復旧を行い補助申請したが、認められなかった。個人へも認めるべきでは。

答 町長 共同である場合のみ補助するものだ。

広域農道の復旧計画

問 広域農道の復旧計画は。

答 町長 事業費は約1億7千万円、2カ年での完了計画である。

問 2年もの交通止めは利用者に負担である。乗用車ぐらいの仮設道路はできないか。

答 建設課長 調査費もかなり難しい。



神石地区高光の広域農道、土石流発生現場

問 以前、国・県の関係先に地元として要望に行ったが、その回答で治山ダム設置に当たり県・町が所有している土地は修復するが、民間の土地は修復対象外とのことだ。

答 建設課長 国の査定地内になっている。土砂の撤去は国・県はしない。単町でも他の災害との関連があり、予算面ではできないが、道路の復旧時には下から仮設道路を付けるので、その時対応できるものは最大限対応していく。

民間の土地に流出している治山ダムのコンクリート塊は、県・町が除去するが土砂は除去しないようだ。民家は全壊しており、



木野山 孝志 議員

問 入江町政2年間の総括と今後の展望

答 今後も持続可能なまちづくりの実現に取り組む

町長

問 入江町政2年間の総括と成果の見通しを踏まえての来年度予算編成へ向けての意気込みを伺う。

答 町長 まず、本年7月発生の豪雨災害復旧を最優先し取り組む。引き続き、財政の健全化に取り組むとともに限られた予算を最大限活用し、持続可能なまちづくりの実現に向け取り組む。

問 JIN(神)プレミアム事業の①超高付加価値農業振興と②地域活性化チャレンジ事業について事業経過と今後の展望を伺う。

答 町長 ①都市部でのPR活動は、神石牛や町内特産品販売に繋がった。

「楽天テレファームとの農業連携協定は現在調整中で年明け早々にはめどを立てたい。エブリイとの連携協定により製品の販売促進・災害時物資提供が実現した。」

JIN(神)プレミアム認定制度は、戦略的発信をどうするか検討中だ。

②「ふるさと回帰塾」は田舎のすばらしさや大切さを共有でき、町内起業に繋がりそうだ。来年度は、手法・時期・範囲など検討する。「達人ネットワーク」は、平成29年度に組織化、独自に活動が広がっている。

「チャレンジ基金」は昨年9月の設立以来3件の支援先決定及び伴走型支援を行っている。本年度は支援先を審査中だ。

ふるさと納税 交付金の使用

問 この度、「福山北署」などは、犬殺処分ゼロを目標に事業展開を行っているNPO法人

ピースウィンズ・ジャパン関係者が狂犬病予防法及び県動物愛護管理条例違反の疑いで書類送検した。」と報道された。

この案件に対して、町としての様に対応したのか。

また、今後の対応は。

答 町長 本町では、先日の書類送検されたことに鑑み、再度、NPO法人に対し法令順守の徹底と緊急時の危機管理マニュアルの作成などを指示した。

事件発生以降NPO団体は県及び本町の指導により業務改善を行っている。指導権限を持つ広島県に於いて再三にわたる巡視や指導により、現在は動物の飼育状況に問題

ないと判断され、本年7月以降譲渡を再開している。今回の事案により、支援不適格団体であると結論づけることは適切ではないと考える。

今後、今まで以上に適切な飼育を行うように広島県とも連携し指導助言を行う事とし、ふるさと納税は今後も継続していく。



ビジネスコンテストで優秀賞の、(株)帝釈峡遊覧船が行う「湖上神楽」

条例制定・改正

こんなことが決まったよ

— 主なもの —

専決処分の承認

賛成多数

有限会社油木特産販売の解散に伴う
指定管理者の指定
施設の名称 ・おいでんしゃあ油木百彩館
・油木地区農産物加工施設
・油木地区農林水産物集出荷貯蔵施設
指定管理者 有限会社 さんわー八二ステーション
指定の期間 平成30年10月1日～平成31年3月31日
(他1件)

財産の取得

全会一致

公用車(町営バス) 29人乗りバス 1台
取得価格 873万円
相手方 有限会社神石ミニカー商会 (他1件)

指定管理者の指定

全会一致

施設の名称 シルトピアカレッジ
指定管理者 株式会社図書館流通センター
指定の期間 平成31年4月1日～平成36年3月31日

条例の一部改正

全会一致

町職員の給与に関する条例
・人事院勧告により給与の増
町営バス条例
・神石地区が犬瀬から乗車可能
三和共同福祉施設設置及び管理条例
・保健福祉センターの移転に伴う
施設利用料の変更 (他4件)

名称の変更

全会一致

上豊松の一部 字の区域及び名称の変更
・地籍調査の完了によるもの

専決処分の報告

全会一致

し尿処理施設棟改修工事請負契約の変更
金額5400万 → 5241万 (他1件)

事業計画の承認

全会一致

土地改良事業計画の承認
・黒木谷地区トマト団地の計画概要を定めるため

議員賛否表

○=賛成 ×=反対

議案名	寄定 秀幸	藤田 晃己	木野山 孝志	小川 清治	久保田 龍泉	橋本 輝久	横尾 正文	横山 素子	赤木 俊二	林 憲志	小川 善久	松本 議長
専決処分の承認(おいでんしゃあ 油木百彩館)	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	—

その他は全員が賛成 議長は採決に加わらない

議員発議

国への提言

「核兵器禁止条約」に署名・批准を求める意見書

この地球から核兵器をなくすことは、原爆被害者の悲願であり、「非核三原則」を国是とする核兵器反対の我が国の政策とも一致する。

昨年7月、国連で122カ国の賛成を得て「核兵器禁止条約」が採択された。「核兵器の開発、実験、生産、製造、取得、保有、貯蔵、移譲、受領、使用、使用の威嚇」を全面的に禁止しており、画期的な内容である。

また、条約採択に際し世界各国で革新的な貢献をしたICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)のノーベル平和賞受賞は、核兵器廃絶へ向けての国際的な合意を強く後押しするものである。

日本は唯一の戦争被爆国として、地球上の核兵器廃絶に向け国際間の調整役など主導的役割を果たすべきであり、日本政府および国会に対し「核兵器禁止条約」に署名、批准することを強く要請する。

提出者 寄定 秀幸
賛成者 横山 素子

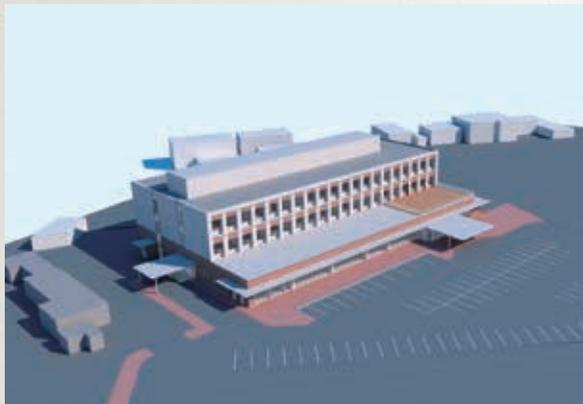
災害優先!! 庁舎建設 4カ月の遅れ



庁舎・病院建設計画

昨年7月豪雨災害を受けた本町では、災害査定に向けた測量設計業務を優先するため、庁舎・病院の設計業務を10月から4カ月間停止させている。

このことにより工期が若干延長になり、造成工事が庁舎・病院とも本年6月中旬からの予定となり、完成は庁舎が平成33年夏ごろ、病院は計画通り平成34年春の開院を予定している。



病院のイメージ図



庁舎建設予定地

まちの声

お便りの一部を掲載

●ごみ袋の価格と大きさの見直しは出来ないでしょうか。
(60代 女性)

●クイズに参加できたことをうれしく思います。
(90代 女性)

●パソコンで神石の様子を知ることができるので、故郷の姿を楽しんでいます。
(尾張旭市 男性)

●災害避難所を高蓋地区にも設けてほしい。
(60代 女性)

●人口増加対策の具体的なアクションをスピーディーにしてください。
(60代 男性)

●クイズの抽選はどのように決めているのでしょうか。
(60代 男性)

* 抽選は無作為抽出です。

議会クイズにたくさんのご応募ありがとうございました。
皆様からいただいた声を受けとめ、前向きに取り組んでいきます。

クイズの答え

- ① 維持
- ② 豪雨
- ③ 料理人

第38回議会クイズ当選者

三和地区 橋迫 芳隆 さん

おのじゅんいっわごまー

元気なグループ紹介だよ!



こやしろう えとちようちん
**固屋城 干支提灯で
 町おこし**

三和小島地区 八組若者

干支提灯は平成六年の年末、「亥」つくりから始まりました。ひよんなことから「提灯で固屋城に鳥居を作ろう」という案が生まれ、早速実行したところ、地元の方からは大絶賛。



提灯完成 今年は「亥」

次に挑戦したのがお盆の時季。大文字の送り火を真似て「大」の字を作りました。そして最後にたどり着いたネタが干支です。山頂に「亥」を作って飾った時、鳥居以上に大好評を戴いたのには、半端ない達成感を感じました。

あれから二十四年、最初に集まって始めた当時の「八組の若者」も今では転出する者もあり、残っている者も年をとりました。八組以外からも若い仲間が大勢増え、おかげで今年も続けることが出来ています。

これから先は、彼ら若い人に頼りっきりになると思いますが、できるだけ長くこれを続けていきたいらと思っています。

代表 正峰 尚幸

発行責任者 議長 松本彰夫
 住所／広島県神石郡神石高原町小島二〇二五

TEL 0847-189-4340
 FAX 0847-189-4201

第39回 議会クイズ GIKAI QUIZ

空欄に適切な言葉をいれてください

- ① P2 成長に○○
- ② P8 森林環境○○○○
- ③ P16 固屋城○○提灯

ヒント 議会広報をよく読んでね!

●応募方法

ハガキに「答え・住所・氏名(ふりがな)・年齢」議会への要望・ご意見なども記入してください。正解者多数の場合は厳正な抽選により、1人の方に5000円分のこうげん通貨券をお送りいたします。応募は、1人・1通に限らせていただきます。

●あて先

〒720-1522 神石高原町小島2025番地
 神石高原町議会事務局「第39回議会クイズ係宛」

●締め切り

2月12日(火) 消印有効

●個人情報の取り扱いについて

ご記入いただきました個人情報は、賞品発送および『まちの声』などの目的以外には利用いたしません。

議会を傍聴してみませんか

次回の定例会は **3月**です

編集後記

新年おめでとうございます。平成から新たな元号になりますが、どんな名前になるのでしょうか?

未知なる未来は、様々な挑戦や挫折の繰り返しにより、切り開くものではないでしょうか?

災害復旧に対応が求められる状況のなか、議会も住民の皆様と共に、神石高原町の明るい未来を創造して参りたいと思います。

議会に対する、ご意見、要望など、お寄せください。(憲)

表紙の紹介



平成30年12月26日
 2中学校生徒と油木高校生が本会議場で町長に向けて提言をした次世代議会

議会広報常任委員会

委員長 赤木 俊二
 副委員長 横山 素子
 委員 木野山孝志
 委員 林 憲志
 委員 小川 善久